



2018年12月12日

各 位

上場会社名 **コーセル株式会社**

代 表 者 代表取締役社長 谷川 正人

(コード番号 6905 東証第一部)

問い合わせ先 常務取締役経理部長 小西 有吉

TEL 076-432-8151

業績予想数値と実績数値との差異、及び通期業績予想修正に関するお知らせ

2018年9月10日に公表いたしました2019年5月期第2四半期(累計)の業績予想数値と本日公表いたしました実績数値に差異が生じたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、2018年9月10日に公表いたしました通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

I. 第2四半期累計期間業績予想の差異について

2019年5月期第2四半期累計期間連結業績予想数値との差異(2018年5月21日～2018年11月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	15,600	2,490	2,540	1,730	48.13
今回実績 (B)	14,869	2,529	2,551	1,595	44.40
増減額 (B-A)	△730	39	11	△134	
増減率 (%)	△4.7	1.6	0.5	△7.8	
〔ご参考〕前期第2四半期実績 (2018年5月期第2四半期)	13,061	2,423	2,515	1,774	49.36

2019年5月期第2四半期累計期間個別業績予想数値との差異(2018年5月21日～2018年11月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	13,440	2,240	2,430	1,690	47.02
今回実績 (B)	12,614	2,294	2,483	1,765	49.12
増減額 (B-A)	△825	54	53	75	
増減率 (%)	△6.1	2.4	2.2	4.5	
〔ご参考〕前期第2四半期実績 (2018年5月期第2四半期)	12,058	2,064	2,279	1,606	44.70

差異の理由

エレクトロニクス業界におきましては、スマートフォン市場の成熟化やデータセンター関連投資の陰りにより半導体製造装置の設備投資が先送りになったことと、工作機械などFA機器関連業界の停滞の影響を受けて、受注が予想よりも減少しており、売上高は、連結・個別ともに、前回発表予想を下回る実績となりました。

営業利益、経常利益につきましては、連結・個別とも、前回発表予想を若干上回る実績となりましたが、連結の親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、スウェーデン子会社の火災損失による影響もあり、前回発表予想を下回る実績となりました。なお、火災損失にかかる保険金収入は、第3四半期以降に計上する見通しであります。

II. 通期業績予想の修正について

2019年5月期通期連結業績予想数値の修正（2018年5月21日～2019年5月20日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	32,200	4,900	5,000	3,460	96.26
今回修正予想（B）	29,500	3,800	3,840	2,550	70.94
増減額（B-A）	△2,700	△1,100	△1,160	△910	
増減率（%）	△8.4	△22.4	△23.2	△26.3	
〔ご参考〕前期実績 （2018年5月期）	26,594	4,704	4,823	3,260	90.72

2019年5月期通期個別業績予想数値の修正（2018年5月21日～2019年5月20日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	26,330	4,390	4,610	3,200	89.03
今回修正予想（B）	23,360	3,340	3,560	2,520	70.10
増減額（B-A）	△2,970	△1,050	△1,050	△680	
増減率（%）	△11.3	△23.9	△22.8	△21.3	
〔ご参考〕前期実績 （2018年5月期）	24,801	4,189	4,450	3,041	84.61

修正の理由

第3四半期連結累計期間以降のわが国の経済見通しにつきましては、企業収益の改善、設備投資の増加及び雇用環境の改善が見込まれる一方で、海外では、米国通商政策による貿易摩擦の動向や新興国経済の停滞等先行き不透明感が強まっている中、世界経済が下振れする懸念があります。

エレクトロニクス業界におきましては、スマートフォン市場の成熟化やデータセンター関連投資の陰りにより半導体製造装置の設備投資が先送りになったことと、工作機械などFA機器関連業界の停滞の影響を受けて、減速傾向が続くものと思われまます。

このような状況下で、2018年6月に株式取得したスウェーデンの電源メーカーの営業力を活用することで、ヨーロッパ市場の需要増加、北米市場の底堅い需要動向を見込んでおりますが、一方で、日本国内市場と中国を中心としたアジア市場においては、設備投資の先送りや在庫調整により需要が減少するものと見込んでおります。

以上のことから、通期の業績につきましては、売上高は連結・個別とも、前回発表予想を下回る見込みとなりました。また、利益面でも減収の影響により前回発表予想を下回る見込みとなり、業績予想を下方修正いたします。

連結売上高は、スウェーデン子会社の売上計画を加え、前期実績比約10%増の295億円を予測しておりますが、利益面におきましては、コーセル製品の売上高減少、減価償却費と人件費の増加及びスウェーデン子会社取得により発生したのれん等の償却負担により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、いずれも前期実績を下回る予測をしております。

なお、通期業績予想の前提となる為替レートは、1USドル=111.60円、1ユーロ=129.70円、1スウェーデン・クローナ=12.48円を想定しております。

※業績予想につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算出しておりますが、需要動向などの変化、各種通貨間の換算レート変動、株式市況動向など、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は、内外環境変化などにより業績予想と乖離することもあり得ますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。

以上